

原発避難者の声を聞こう！

あの日、あの時間、家でテレビを観ていた。

弟の中学卒業式の日だったので、母も仕事を休んでいた。私も、入試で高校は休校だった。初めて感じた強い地震の揺れに母は、津波の危険を察し2人で高台の小学校に避難した。新築したばかりの家は浪江町、海から2kmに位置した。津波は家の50m手前の用水路で止まった。



浪江町

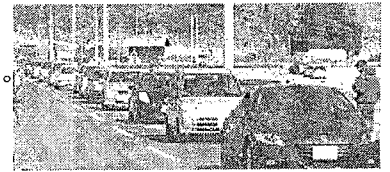
原発位置

ほっとしたのもつかの間…

一夜開けて、避難所から町へ出るとパトカーから流れていた避難命令。

避難先の小学校から急遽、原発から北西へ2.9km離れた津島地区へと町民たちは避難。

ここには情報が一切入ってこない。ここもまた放射能飛散の危険に。



浪江町民2万人の二本松市への避難を町長は決断。しかし、2万人の町民を受け入れられる態勢が二本松市にはない。私は友人からの情報を頼りに福島市へ移動し、西高校で一泊。その後も転々とし、三島町の西隆寺に受け入れられて避難生活を送った。その後、福島第一原発で派遣社員として働いていた母の再就職口が決まった。茨城県東海村原子力発電所に。私たち3人家族は母の職場の近くの茨城県日立市へと移った。弟は折角合格していた浪江町の高校には通えずじまい。私は元もと通っていたいわき市の高校へ1時間かけて通学し卒業できた。あの日、高校1年生だった私のくらしは今大きく変わってしまった。今秋10月から専門学校へ。浪江町の我が家への帰還はできない。今まで数度荷物を取りに時間制限で帰宅はしたが…

Sさんからの聞き取りより

あの日あの時からの避難について話してくれたSさんが、来月私たち実行委員会の依頼を受けて話に来て下さいます。同じ世代の彼女が、感じていること、考えたこと、胸一杯にため込んでいる思いのだけを話しに来てくれます。是非多くの人に聞いて欲しいと思います。

絵柄募集中

大量収穫の向日葵の種を小袋に入れてお配りします。その小袋にメッセージカードを入れます。カードのデザイン画を募集しています。9センチと5.5センチ名刺サイズ縦横自由。最寄りの実行委員へ22日締め切り。

数字でみる復興の状況

3兆9035億円

被災3県と市町村の基金の合計(2012年度決算)。国から膨大な復興予算が注がれた結果、被災自治体で基金の残高が急激に増えている。単年度で終

わらない大型事業が多い一方、入札不調など事業の遅れも目立ち始めている。基金の積み上がりは、被害の大きかった沿岸部で目立っている。

51%

被災3県に渡ったお金(復興交付金)のうち、使うめどが立ったお金(契約済額)の3県全体の割合(2013年8月の復興庁調査)。復興交付金事業は、進捗率しんちくりつが半分にも満たない地域がある。当初は住民合意が

障壁しょうへきとなっていたが、最近では資材高騰などによる入札不調に変化している。

3%

被災3県で計画中の災害公営住宅のうち入居可能な戸数の割合(福島・宮城は2014年1月、岩手は2014年2月)。福島県の入居開始は146戸(計画数7583戸)、宮城県の入居開始は322戸(計画数1万5608戸)、

岩手県の入居開始は467戸(計画数6038戸)。

970人

仙台市で震災後の2011年2月から13年12月の間に増えた生活保護受給者数。被害が大きい地域では義援金などが支給されて生活保護受給者が減少。逆に、人の流入が多い仙台市では増えている。

538億2381万円

復興予算の中の農・水産業費(被災3県の市町村の2011、2012年度の決算合計)。12年度に農業費が伸びた宮城県。最新のコメの乾燥

貯蔵施設を建設した石巻市は、農業の大規模化で復旧を進める